

# 産直便り

組合員と生産者がともに育てあう  
生協の産直

## 石黒農園株式会社



石黒農園株式会社(あわら市)  
代表取締役 石黒 重正さん

1975年に野菜苗の生産・販売を始め、2016年に法人化。ホームセンター向け家庭菜園用野菜苗をはじめ、生産農家・JA向け野菜苗、公共施設向け草花苗、特定品種などの特別注文苗などを幅広く手掛ける。



## 育てやすく、しっかりした果実を完熟収穫できる 産直 接木苗 桃太郎トマト

### 完熟収穫の「産直 接木苗 桃太郎トマト」をはじめ 約100種類にのぼる野菜苗づくり専門農家

育てやすく、プランター栽培もできる、「産直 接木苗 桃太郎トマト」。石黒農園株式会社は県内でも希少な野菜苗の専門農家として、桃太郎トマトをはじめ春・夏合わせて約100種類の家庭菜園用野菜苗などをつくっています。

「春の野菜苗はトマト、きゅうり、なすなど約70種類。完熟トマトの代表種である桃太郎トマトは、品質的にも人気です。自根苗と接木苗があり、接木苗は果実がしっかりしていて、樹上で完熟させて収穫できますよ」と石黒さんは魅力を語ります。

桃太郎トマトの苗づくりはビニールハウスの中で1月下旬頃から始まり、種を蒔いてから約1ヶ月後に接木を行います。これは土からくる病気に対して抵抗力を付けるためで、抵抗性の強い品種の「台木」に、種から育てた桃太郎トマトの「穂木」の切り口を手作業で接ぎ合わせます。1日約700本におよぶ繊細な作業は「長年の勘が重要です」と石黒さん。



接木後は温度と湿度を調整したLED照明の接木養生室に数日置いて様子を見守り、その後、ビニールハウスに移して約1~2ヶ月後に出荷となります。

### 独自に考え、絶えず挑戦を いろいろな意見も取り入れて

石黒農園株式会社では種蒔きや苗の植え替え作業を、ほとんど機械で行っています。ビニールハウスや接木養生室などの施設も石黒さん自ら改良を重ね、高品質・低コストな効率化を追求。「メーカーを頼らず独自の考えでやれるのが、農業のいいところ。絶えず挑戦することで自分が成長していきます」と石黒さんは胸を張ります。

県民せいきょうとは1980年から産直取引を開始。組合員さんと交流を重ねる中で、「組合員さんの意見からいろいろなヒントをもらっています」と語ります。

家庭で上手に野菜を育てるには、「土づくりが大事」とアドバイスする石黒さん。「それぞれ土の条件が違うので、水はけの加減や肥料などで土壌を改良してみてください。でも、一番は楽しんで育ててくれたら」とほほ笑みました。



過去の交流会の様子

### 育て方豆知識

家庭菜園の植え付けは、「高い畝に浅く植えるのが基本」と石黒さん。水やりの加減も重要で、「根は水を求めて伸びるので、土が乾いていることが大事。夕方に苗がしおれていても、朝ピンとしていれば大丈夫なので、朝に様子を見て水やりするといいですよ」と教えてくれました。

### 奥越地区産直協議会主催 石黒農園さんの野菜苗販売会

時 4/26(土) 10:00~12:00

所 大野きらめき 駐車場  
勝山きらめき 駐車場

持 苗を持ち帰る容器

毎年  
大好評の  
企画です!



産直 接木苗 桃太郎トマト

宅 (4月3回(ふくい~))